

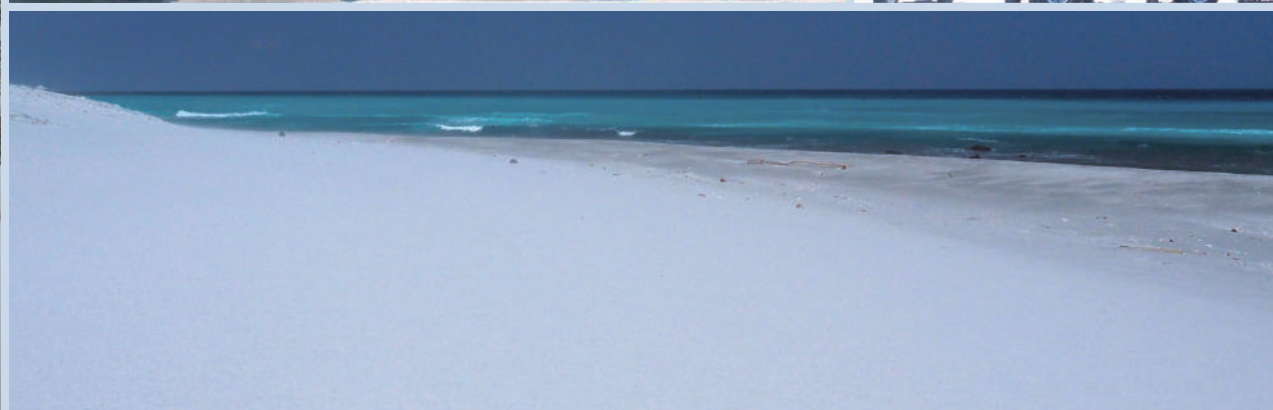


まるで異世界に迷い込んだような
「少」る「サ」く「り」だす
SPECTACULAR
神秘の絶景

「こんな場所が日本にあったのか」初めてここに降り立ったとき、そうつぶやかずにはいられないような景色だ。新島の東海岸におよそ7kmにわたってまっすぐに続く白砂のビーチ、羽伏浦。特に白さが際立つのが、南端にそびえる「目ママ」だ。向山の噴火によって放出された大量の火砕サージ堆積物が、強い波や雨風によって浸食されてできたもの。島の言葉で「白い崖」を意味するその名のとおり、高さ300mに及ぶ巨大な白い崖が海に向かってせり出すようにそびえ立っている。

上に、どこまでも真っ白な世界。ここいくらの神秘的な景色が、目の前に広がる。しかも新島の砂が珍しいのは、白だけでなくキラキラときらめいている点だ。太陽の光を浴びて、控えめな光が星のように砂浜の上で瞬いている。キラキラの源は、白砂に多く含まれる石英と呼ばれる鉱物。世界中の砂を研究してきた故・有田正史博士は新島を訪れ、「世界には石英の砂浜はいくつかあるが、これほど透明な輝きは他にはない。世界一のきらめきの白い砂」だと語っている。

現在は崩落が激しいため、残念ながら立ち入り禁止区域となっているところが多い。海から眺めるしか方法がないが、それでも巨大な白い壁と透明な砂がつくり出す景観は、新島でしか味わうことのできない絶景といえる。



1		
2	3	4
	5	

浸食で回廊のように入り組んだ場所もあり、まるで古代遺跡のような白ママ(写真1~4)。西の浦は一面真っ白の世界(写真5)。いずれも数年前までは歩いて行けたが、2026年2月現在は立ち入りできなくなっている。

写真1・2・4：森 碧廉、3：新島村産業観光課、5：植松正光